The distribution of the averaged R_d values is shown in Fig. 5. Finally, we divided the area as shown in Fig. 5 with regard to the significance level of the relationship between the height and the averaged value above mentioned. Namely,

$$Y = aX + v \dots \dots \dots \text{eq. (5)}$$

where Y is mean value of R_d in mm., X the height above sea level in meters. The result is given in Tab. 3.

In conclusion we may state that, the increasing rate of the amount of anomaly in mountainous regions is summarized as follows: Area A and E is 3 mm, H 2.5 mm, B and D 1 mm, and F and G less than 1 mm per 100 meters in altitude change.

縁組による讃岐都市の人口移動

——縁組による人口移動の地域的研究 第3報——

合 田 栄 作

はしがき 本篇は人口移動の地域的形態を把握する為、1949年中に、高松市・丸亀市・坂出市・観音寺町・豊浜町・琴平町・仏生山町・津田町の3市5町へ届出た婚姻届4,340と、離婚届541による縁組移動者合計4,881人を資料とした結果で、部分的には1950年から51年にかけて、日本地

第1図 調査地域 (1949)

理学会・大塚地理学会・人文地理学会・徳島地理学会・香川地理学会等に於て発表した。1949年の資料を用いたのは、他地域の調査と年を同じくする為であり、

この3市5町を選んだのは、自然位置や人口数や性格等から言つて、讃岐の都市を或程度代表させ得ると考えたからである。

本研究は1950年度の文部省科学研究費による研究の1部であることを特記して謝意を表すると共に、資料蒐集にあたつて御高配をいただいた高松・丸亀・観音寺等の法務局にも心からお礼を申し上げる次第である。

1. 都市の概要 a. 高松市 香川県の中央よりやや東、香東川の旧河床を中心とした三角洲上に位置し、人口120,538人(1949.8.1. 以下同じ)で、県の最大都市である。徳川の親藩松平頼重の城下町として発展し、明治以後は政治都市としての外に鉄道連絡地として四国の玄関となり、経済・文化・観光等に於ても県の中心都市となつた。戦災でほとんど焼失したが、終戦後は四国の政治・経済・文化・交通・観光等の総合的中心都市となりつつある。b. 丸亀市 県の中央よりやや西、土器川と金倉川との複合扇状地状三角洲の先端に位置し、人口37,681人の小都市であるが、丸亀平野の中心地であると共に、西讃の中心地として東讃の高松市に、相對する。京極氏等の城下町であるが、徳川中期以後は金毘羅参詣客の船着場として大阪港に次ぐ繁栄をみせた。明治以後は軍都をかねたが、高松市や多度津町に港町としての機能を奪われて市勢振わず、今次大戦には戦災をまぬがれ、戦後は一時高松に代つたが、高松市の復興に伴い又もとにかえつた。c. 坂出市 綾川の三角洲上の人口42,401人の小都市で、高松市と丸亀市との中間に位置し、製塩・化学・紡績・農機具・鉄工等の工業都市としての発展途上にある。市の基礎は文政年間の久米栄左衛門の塩田の開発で、最近には戦災にもあわず、港を改修して貿易港となり、又工場誘致にも成功している。d. 観音寺町 財田川の川口、三豊平野の中央に位置し、人口20,617人の地方町で、位置がよい為三豊平野の中心地となつてゐる。又漁港として東讃の引田町に對立した地位をもち、白砂青松の有明海岸でも有名である。e. 豊浜町 人口6,849人の地方町で、狭い為人口密度は大である。古くは港町として、又西からの陸路による金毘羅参詣客の宿場もなしたが、鉄道開通や観音寺町の発展に伴つてさびれ、今は工業地の色彩が濃い。f. 琴平町 金刀比羅宮の門前町で観光客年300万人を数う。人口8,135人で讃岐文化の一つの淵源地をなす。町が参詣道を中心として職業構成その配置交通機関との關係等に於て、門前町としての特色を発揮している様は実に見事である。g. 仏生山町 高松市の南方8軒、洪積台地が高松平野にのぞむ所に位置し、人口6,091人、半農半商で人口

増加も少なく町勢は振わない。古くは松平藩主の菩提寺である法然寺の門前町で、南北に走る巾広い舗装道路を中心とする景観は、古い田舎の市場町の様である。h. 津田町 津田川の三角洲と海岸砂丘上に位置し、人口8,089人、東讃海岸の一中心地である。港や漁業から発生した砂丘上の街村集落が発展したもので、今は白砂青松の琴林公園をもつ観光地ともなった。

2. 移動者の構成 移動者を離都者・入都者・自都者（自市町内移動者）別、都市別、男女別に集計すると、総計4,481人は人口1,000人当19.5人で、入都者が37.3%、離都者が33.0%、自都者が29.7%となり、人口消費地であり又人口移動地である都市の一般的傾向と一致していて、人口供給地であり又村内移動の多い島嶼村^(註)とは著るしい対照をなす。都市別特色と一般的傾向をみる為に、離都市者に対する入都者数の百分比を求め、

之と人口との関係をみると第2図となる即ち各都市の特色が理解されると共に、人口の割に多くの農村を包含する坂出市と、人口は少ないが人の移動が多く都市的色彩の大な琴平町とを例外特別に考慮

すれば、両者の関係は曲線で示されるが正相関を示し、人口1万人内外の所に離入同一の所が考えられ、又逆にここに人口移動上からの都市と農村との境界をも考えられる。性別では、女子が93%で島嶼村の90%よりは多く、更に離・入・自別にすれば94・93・93となり余り特色はないが、女子が主体であることは変らない。離婚者は11.7%で、離・入・自別では11.6・10.2・11.7%となり之又余り特色を示さない。

3. 移動の地域的考察——通婚圏 a. 自都市内の移動 自都者数が移動総数中に占める%と、都市人口数との関係をみると、両者は正相関をなすが、人口1—2万に急変点をもつ曲線となる。かくて人口の多い都市程其都市自身が通婚地域として、換言すれば生活圏としてより十分な地表空間をなすが、人口1—2万以下に於ては不連続的に生活圏としての意味を激

減する。この人口の多い都市程自都者が多いことは、小さい島嶼村に村内移動が多かつたのに比較して非常に興味がある。

b. 県内移動 離都者・入都者を県内・県外別にすると、両者の比率は、離都者は100 : 78, 入都者は100 : 62, 総計は100 : 69で県内が主となる。性別では、男子の離都者は100 : 59, 入都者は100 : 65でやはり県内が主となり、離入合計では男子は100 : 38, 女子は100 : 72でやはり県内が主となる。男子が女子

第3図 $\frac{\text{自都者数}}{\text{移動総数}} \times 100$ と人口との関係

に較べて近い県内の割合が多いことは、自都者でも同じで、他の移動とは異なる特色である。高松市の離都者405人中、行先地不明者4人を除いた401人の行先地を市町村別に図化すると、広く県内に分布するが、(1)隣接地域殊に南方隣接地域に多く、(2)遠くても坂出市や丸亀市等の都市には多い。行先地市町村人口1,000人当人数を出婚率として等値線図化すると第4図のa

となり、高松市の隣接地域に多いが、その形態は南北に広く東西に狭く、東西では遠距離程少なくなっている。北方の直島村や雌雄島村と、南方の山麓等を含め

第4図 県内出婚圏

てその地域が南北に広いことは、0.2までの線を引くともつと明瞭とな

る。丸亀市の134人の行先地市町村別分布は、やはり隣接地域に多く、坂出市・善通寺町・高松市等の都市へは遠くても多い。出婚率を等値線図化すると第4図のbとなる。0.6まででは明瞭ではないが、0.2までみると、隣接地域を核心とした仲多度郡と綾歌郡の西半分と三豊郡の北東部を包含した移動地域が明瞭となり、北方の島や南方の山麓村にもやや多いことも分る。ただ高松市のよりは数値が著るしく小となる。後背地が少ないと考えられている坂出市の159人の出婚率を等値線図化すると、第4図のcとなる。之も0.6まででは明瞭でないが、0.2までみると、やはり隣接地域に多く遠方に少なく、丸亀市や高松市等は絶対数は多いが率では多くならず、北方の島にも多く、前記二市と類似するが、南方に余り移動地域をもたず且地域が比較的東西に広いことは著るしい違いとなる。そして等値線からみた等移動核心地域は高松市のよりは狭く丸亀市のよりは広い。観音寺町のは60人で図は略するが、隣接地域に多く遠くは少なく、遠くても都市には見られること等は今迄のと類似するが、東部や南部が核心地域をなすこと、分布が点在すること、地域が丸亀市のよりは更に狭いこと等に相違がある。豊浜町の22人は、東と南の隣接村に集中するが、出婚率1人以上の地域はなく、その他では郡の南西部に点在し郡外へは1人もない。琴平町の35人は、北・南・東の隣接地域を主として広く県内に点在するが、出婚率1以上の所はなく、西の三豊郡へは1人もないことは豊浜町と対照的である。仏生山町の43人は、東と南の隣接2村を核心として近くに多く、この2村のみが出婚率1人以上となる。高松市へは絶対数では15人もある。津田町の42人もやはり隣接地域に多く、南の鶴羽村は出婚率1人以上の唯一の地域となる。然し絶対数からは遠くても都市には見られることは同じである。かくて出婚圏は其都市の近くに決定せられるが、都市毎に広さと形態を異にし、大都市程広く小都市程狭く、出婚率1人以上の地域を範囲とすれば、高松市は香川・木田両郡の北半部と綾歌郡の1部を、丸亀市は東・南・北の3隣接村を、坂出市は全隣接村を範囲とし、観音寺町は3村を、豊浜町と琴平町にはなく、仏生山町は2村を、津田町は1村をその範囲とする。形態は都市を囲む同心円的なものとなるが、3市は北の島嶼村を含む点に、観音寺町は東に、仏生山町や津田町は南に伸る点に特色があり、全体としては、近い地域を出婚圏とし、南北に長い形態をなす所に特色がある。高松市の入都者535人（内不明2人）の前住地は、（1）広く県下に分布するが隣接地域殊に南方地域に多く、（2）坂出市・

丸亀市・多度津町・善通寺町等の都市には遠くても多い。市町村別前住地人口1,000人当人数を入婚率として階級区分すると、隣接地域や南部地域に多く、入婚圏は南北に広く東西に狭く、北は直島村、南は阿讃国境、東は木田大川郡界、西は香川綾歌両郡界を境として香川・木田両郡がほぼその範囲となる。之を等値線図化したのが第5図のaで、2人以上の地域は市を囲んで半円の形態をとるが、1人以上とすれば、木田・香川両郡を包含して少し北西

一南東に傾いた南北に長い地域となる。そしてもつと小率の線をとれば、西部の境界は比較的明瞭な不連続線をなすのに東部は不鮮明で、大川郡の西半は1人以下であるが
多い地域となる。

第5図 県内入婚圏

小豆島は西にやや多い所がある。丸亀市の168人も県下一円に分布するが、隣接地域を核心とした丸亀平野に多く、都市は遠くても多い。入婚率を階級区分すれば、隣接地域と仲多度郡を核心地域として、綾歌郡の北西部、三豊郡の北東部、本島・広島・阿讃国境でかこまれた比較的南北に長い地域に多い。1の等値線図が第5図のbである。高松市のより狭いことは出婚圏と同じである。坂出市の171人も広く分布し、隣接地域を主とし、都市へは遠くても多い、入婚率では、綾歌郡の東端、丸亀市の西端、阿讃国境、北の島嶼村を以て囲まれた地域が大体の地域となり、基地は点在し、香川県以東には殊に少ない。核心地域が市を囲んで半円形の東西に広い地域であること、北に少ないこと等は高松市や丸亀市のとは異なるが、綾川沿の南方地域にもややのびる。東端が高松市の入婚圏の西端と一致することは、西の丸亀市との境界が不明なのと対照的で、高松市との間には明瞭な都市圏があるが、丸亀市との間では不明で、両者は一都市になる可能性をもつとも解釈出来る。1の等値線第図が5のcで、以上のことや、

地域が高松市のよりは狭く、丸亀市のよりはやや広いこと等が理解せられる。観音寺町の84人は72人が郡内で、近い沿海村と財田川沿の村に多く、入婚率2人以上の所は南北に、1人以上の所は観音寺町を交叉点とした十字型地域となり、形態は海岸と内陸にのびる坂出市のに類似するが、範囲は丸亀市のと類似する。伊吹島は関係の深い島であるが僅か1人しかない。豊浜町の28人は2隣接村に多く、他は北東部に僅かに見られ、入婚率1人以上も和田、五郷両村のみである。

琴平町の50人は、東部と北部に隣接する町村に多く、都市は遠くても多いが、他は西讃各地に点在する。入婚率1人以上は東の2村のみで、等値線は東にのびている。仏生山町の38人も隣接する四方の村からで、入婚率1人以上は南の1村で、地域は狭く等値線は南にのびる。津田町の46人も東や北に隣接する村からが多く、入婚率1人以上は、鴨部・鶴羽・造田・小田等の村で、地域は少し広いが、北や東にのびている。即ち入婚圏も都市毎に広さと形態を異にし、大都市程広く、入婚率1人以上の地域を範囲とすれば、高松市は東讃ことに香川・木田両郡の大部分と大川郡の西半部と綾歌郡の1部を、丸亀市は近い南の6ヶ村を、坂出市は北以外の隣接6ヶ村を、観音寺町は3隣接村と東と南の3村を、豊浜町は南の2村を、琴平町は東の2村を、仏生山町は南の1村を、津田町は附近の4ヶ村をその範囲とする。小豆島は出て来ぬ。形態もやはり都市を囲む同心円的なものとなるが、高松・丸亀両市は殊に南方に広く、坂出市は東西に広いが南方にも伸び、観音寺町と琴平町とは東方に、豊浜町と仏生山町とは南に、津田町は北にのび総じて内陸地域たる南方に伸びている。かくて出婚圏と入婚圏とは、近接地域に同心円的に決定せられ、多くは南北に広く、海岸線や山地の方向に直角の方向に楕円形の長径をもつ。そして入婚圏が出婚圏より広く、南の非都市地域には殊に著しい。ただ北方の島では出婚圏がやや広い。かかる現象は、縁組による人口移動も、距離の制約をうけつつ向都離村現象が離都向村現象よりも広範囲に行なわれ、農村が人口供給地としての、都市が人口消費地としての特色をもつこと、又都市の位置する自然環境や都市の配置状態が移動圏の形態を左右していることを説明している。出婚圏と入婚圏との中間線を以て通婚圏の範囲とし、出婚率1人入婚率1人の中間線と、両者が0.2人の中間線とを例として、都市人口数と通婚圏半径との関係を図示すると第6図の平行せざる2本の直線となり、都市人口が多い程通婚圏は広くなると共に、同心円状をなす通婚圏の

線間の中も又大となり、又都市人口の増加に伴う通婚圏半径の増加は直線的関係であること、移動量は距離に制約せられて曲線をなして遠くに少ないこと等を知ることが出来る。

c. 県外移動 大都市は入都者が多く、小都市は離都者が多い傾向であるが、全体では県内移動とは逆に男女とも離都者が

第6図 通婚圏半径と都市人口との関係

多く県外への人口供給地となつている。高松市からの離都者は、米国と樺太への各1人を入れて322人で、行先地は、大阪府・兵庫県をはじめ山陽・四国・北九州等を核心として全国に分布するが、都市地域と近距離地域に多い。行先地人口（1950.10.1以下同じ）10万人当人数を出婚率として見ても同じことが言えるが県内程明瞭ではない。殊に新開地北海道は例外的に多い。都市に多いことは、大阪府は76人中67人、兵庫県は46人中23人と言つた状態で、320人中174人で54%に上る。丸亀市からは108人で、東京都を除けば西日本、殊に近くて都市の多い阪神や、瀬戸内・四国地方に多く、出婚率からもほぼ同じくなる。又都市に多いことも大阪府へは25人中23人、兵庫県へは12人中8人といった状態で、108人中50人で46%となる。坂出市は99人で、地域的に更に狭く阪神地方を主とした瀬戸内に多い。南四国や山口県に少ないことは目立つ。市へは61人で62%となり、高松市や丸亀市よりも多い。之は工業都市の性格から来るのであろう。観音寺町の66人も、大阪府をはじめとして阪神地方や瀬戸内に多く、都市へは34人で52%である。愛媛県に11人もあるのは近いのである。豊浜町は女子のみ29人で、散在し、大阪・福岡・愛媛・岡山の諸府県に多く、都市へは10人で35%である。琴平町は33人で、全国に分布するがやはり阪神地方に多く、都市へは64%もある。仏生山町は女子のみ13人で、大阪府の5人が主で、都市へは64%である。津田町の34人も阪神地方に集中し、都市へは80%に上る。之は阪神地方に近いと思われる。即ち県外出婚圏は、大阪府と兵庫県への254人36%を主とし阪神地方を核心とした瀬戸内・四国地方となり、都市地域と近距離地域となる。殊に都市へは705人中386人55%で、県外への移動は県外都市へ

の移動であることは、島嶼村の49%よりも更に著しい。高松市への入都者354人の前住地は又全国にわたるが、大阪府の88人を筆頭に、阪神地方を核心とした瀬戸内・四国地方が主で、近くや都市地域となることは入婚率からも明瞭である。都市からは大阪府の77人をはじめ総計207人59%である。丸亀市の130人も阪神・瀬戸内・四国地方等に多く、都市からは65人で50%である。坂出市の82人も大阪府を筆頭にして都市地域や近接地域に多く、都市からは37人45%で大阪府の都市からが殊に多い。観音寺町の45人も都市地域と近くに多いが、3市に較べて愛媛県や岡山県にやや多い。都市からは17人38%である。豊浜町は女子のみ15人で、関西各地に点在し、都市からは6人40%である。琴平町の21人も関西各地に点在し、都市からは12人57%である。仏生山町も女子のみ15人で近くに点在し、都市からは10人67%である。津田町の27人も女子のみで、阪神地方や徳島県に多く、都市からは16人59%である。かくて県外入婚圏も県外出婚圏と類似して阪神地方を主とした瀬戸内や四国地方となり、都市地域と近距離地域となる。都市からは370人54%となり、離都者の55%と類似し、県外入都者は県外都市からとなる。即ち県外との縁組による人口交流は、大きい都市は流入者が多いが、大体は近い県外の都市との間に流出者が多いという型で行なわれ、行先地と前住地は類似し、都市の位置や大きさによる地域の差異も著しくなく、大きい都市との交流も範囲の増大よりは同一地域への移動量の増加として現われ、阪神・瀬戸内・四国地方に多い。各都市の離都者入都者の合計の都道府県人口100万人当人数を通婚率として分布を示せば第7図となり、県外通婚圏は、阪神・瀬

第7図 県外通婚圏

戸内・四国・北九州地方等となり、幾分北東に偏した近距離地方と都市地域となる。然し距離的關係や都市の大きさとの關係等の量的表現は、資料の關係で県内のように示すことは困難である。茲で県内県外を通しての移動の特色を述べると、県内近距離地域からの流入者を迎え、近くや都市の多い他府県へ流出者を出すという型で流入者が多い都市型であること、従つて移動方向は南から北へがその逆より大であること、高松市と丸亀市は県内県外から入れる都市型であり、坂出市と豊浜町と津田町とは県内から入れて県外へ出すが合計では出る者が多い農村型であり、観音寺町と琴平町とは県内から入れて県外へ出すが、合計では流入者が多い都市型であり、仏生山町は県内へ出し県外から入れ合計では流出者が多い農村型であること等で、之等は移動が距離の制約を受けつつ離村向都を示すものであり、又本県の都市が県外の多くの都市に較べて農村的色彩が多いことを示すものであるとも言えよう。

d. 3者の比較 自都市内移動・県内移動・県外移動を比較すると、絶対数では1,613人・2,020人・1,394人で県内・自都市内・県外の順となるが、人口1万人当人数では、63.8人・29.2人・0.17人となつて自・県内

第8図 出生年別配布図

・県外の順となり自都市内が第1の通婚圏となる。而して県内と県外の通婚圏は共に近くと都市となるが、県内では近距離地域を主とするのに対して、県外では近接府県の都市を主とし、3市5町による差異は、地域の相違よりは同一地域への移動量の差異となつてゐる。

4. 移動者の年令 第8図の如く最年少者は1933年生れの16歳、最年長者は1877年生れの72歳（再婚）で、21歳から24歳までに多く、ピークは22歳である。之は島嶼村よりは1歳若い。配布の特色は、ピークから若年へは急減し、年長へも28歳頃までは急減するが、それ以後は減少の度合が緩慢となり、遂には断続して72歳に及んでいることで、島嶼村と類似する。女子のみでも之と類似するが、男子は若年者が少なく、ピークは25歳で且余り明瞭でない。高松市等の大きい都市のは巾が広く且ピークも明瞭で、その形態がコニーデ式火山型であるが、小都市程台地状で複雑な変化をなし、殊に観音寺町の不規則性は著しい。

5. 移動の時期 資料の不十分な観音寺町と豊浜町とを省き、移動年次を図化すると第9図となる。男子は310人中134人即ち43%が1949年に、125人即ち40%がその前年に移動し、他は少なく最も古いのは1908年である。女子は1948年のが最も多く、1949年が之に次ぎ、両年で76%となり男子よりやや届出がおそい。最も古いのは1900年である。総計では19

第9図 移動年別配布図

48年が40%、1949年が36%で他は少ない。届出た年よりもその前年のが多いことは、届出た年の47%もあつた島嶼村とは異なるが、2ヶ年に多いことは類似している。絶対数の多い市殊に高松市のが長年に亘ることは当然乍ら目立ち、又琴平町は1949年に多いこと、津田町は1948年のが1949年の1.9倍もあること等に都市別特色がある。月別移動数は第10図と

なり、最も多いのは4月の538人で、1・10・5・12・2月等之に次ぎ、最も少ないのは7月の162人で、8月之につぐ。即ち年末年始と春に多く、秋之に次ぎ夏は最も少なく、11月と3月が小さい谷をなす、性別にみても類似するが、離婚は8月に51人で離婚の10.6%、8月移動の30%を示し、最も少ないのは11月で、一般に夏に多く冬に少なく逆の傾向を示す。性別にみても同じ。この特色は島嶼村でも実証したが、他の労力移動等とは著るしく異なる型で、農繁期や出漁期を避けた外に、

季節と関係が深いことを現わしている。例えば11月に少ないのは農繁期の為であるが、3月に少ないのは、散り易い「はなのえん」と言つて避ける風習があつたこと等はその1例である。3市は同じ傾向をもち、殊に高松市の変化は明瞭である。3町は変化が少ないが、津田町は1月に、仏生山町は10月に多く、琴平町は1月に少なく12月に多く、殊に10月よりも11月に多い。之は出稼漁業をなす海岸集落、米作本位の農業集落、1月や10月に参詣客をもつ門前町の特徴を現わしているものと言えよう。

むすび 以上の要点を述べてむすびとする。(1) 移動は人口1,000人当19.5人で、女子が93%を占め、離婚者は11.1%である。(2) 人口約1万人以上では、離都者より入都者が多く、しかも大都市ほど離婚者に対する入都者の率が多く、以下では離都者が入都者より多く、しかも小都市程前者に対する後者の率が少なく、其等の関係は曲線で示される。(3) 大都市程自都市内の移動が多く、其関係も曲線で示される。(4) 県内移動は県外移動よりは多く、その入都者は離都者よりも多く、通婚圏は都市を取り巻き内陸方向に長径の楕円形状の同心円形的形態をなして近接地域となり、且出婚圏よりは入婚圏が広い。しかも其半径は都市人口と直線的正相関をなす。(5) 県外移動では離都者が多く、通婚圏は都市別にも出婚

第10図 移動月別配布図

入婚別にも変化が少なく、近距離府県と都市地域とで、阪神・瀬戸内・四国・北九州等である。(6) 人口比率からは、自都市内・県内・県外の順に大であるが、県内県外に就ては、県内農村から流入者を迎え、県外都市へ流出者を供給するという型で移動が行われていて、向都離村を示し、南から北への流が主をなす。(7) 年令は16歳から72歳までで、22歳が最も多く、若年へは急減し、年長へは緩減し、大都市程その傾向が著るしい。男子は女子よりはおそく、且年令による変化が少なく、ピークも明瞭ではない。(8) 移動年次は古いものもあるが、1948年のが最も多く、1949年のが之に次ぎ、其他は少ない。月別変化は多く、季節との関係が明瞭で、冬・春に多く、夏・秋に少ないが、離村では逆に夏に多く冬に少ない。(本篇は1952年に執筆したものであるが、今回部分修正をして公表した。)

(1954年9月24日受理)

註 合田栄作(1951): 縁組による讃岐島嶼村の人口移動, 香川大学学芸部研究報告, 1, 2.

MIGRATION CAUSED BY MARRIAGE IN CITIES AND TOWNS IN KAGAWA PREFECTURE

Eisaku GŌDA

The characteristics of the migration caused by marriage in 3 cities and 5 towns of Kagawa Prefecture in 1949 may be summarized as follows:

1. Migration rate per 1,000 inhabitants is 19.0, 93% of which is occupied by women, and 11.1% by divorcees.

2. The greater the population of a city, the higher the rate of influx to efflux, and vice versa. The relation between the population of a city and the rate of migrators is indicated by a curved line.

3. The greater the population of a city, the higher the rate of intra-city migration, and the relation between the population of a city and the number of intra-city migration is also shown by a curved line.

4. The number of intra-prefecture migration is greater than that of the migration between Kagawa and other prefectures, and in this case the influx people into cities outnumber the efflux people from the cities. The sphere of intermarriage is defined to a limited area surrounding the cities which respectively forms an elliptical area with major axis in N-S direction. The greater the population of the city, the larger the area of the sphere of intermarriage, and the relation between them is indicated by a straight line.

5. In case of the migration between the cities of Kagawa prefecture and

other prefectures, efflux people from the cities are more numerous than influx people into the cities. The sphere of intermarriage of this case cover Ōsaka-Kobe area, Setouchi, Shikoku, and the northern parts of Kyūshū etc.

6. Judging from the rates, the migration caused by marriage was made in the following order: (1) within native cities and towns, (2) within the prefecture, (3) between Kagawa and other prefectures. Generally speaking, in the cases of (2) and (3), the cities and towns of Kagawa prefecture had influx people from the farm villages within the prefecture and efflux people in the cities and towns in other prefectures.

7. The migration caused by marriage took place mainly in April, January, October, May, December and February, and most infrequent in June, July, August and September. But the migration caused by divorce took place mainly in August, and infrequent in November. It is clear that the migration have a close connection with the season.

高距農業集落の上限下降 ——赤石山地の北川——

山口 源 吾

1. まえがき 井上修次氏は「本邦最高地域の居住状態と居住上限界の分布とについて」⁽¹⁾において、本邦農業集落の最高値としては赤石山地西部の北川の1490mを得ると記載されている。この数値は諸書⁽²⁾に引用されて北川は本邦最高の農業集落を代表した。筆者は高距居住上限を規定する因子の考察中、この北川の野調によつてその後の経済態様・文化度等の姿貌を把握し、著しい居住上限下降の事実を知つたのでそれ等について報告したい。

2. 高距位置 北川は赤石構造線中の分杭峠の南部に位する山村である。集落は壮年期の鹿塩川谷底にあり一部は東部の山

第1図 調査地域